

4K 放送用カメラ対応ポータブルズームレンズ“CJ27e×7.3B”を発売
運用性と機能性を高めた新開発のデジタルドライブユニットを搭載

キヤノンは、2/3 型センサー搭載の 4K 放送用カメラに対応するポータブルズームレンズの新製品として、新開発のデジタルドライブユニット「e-Xs V」を搭載した望遠モデル“CJ27e×7.3B”^{※1}を 2024 年 8 月下旬に発売します。



CJ27e×7.3B



デジタルドライブユニット「e-Xs V」

新製品は、2/3 型センサー搭載の 4K 放送用カメラに対応する高い光学性能を持つ、ポータブルズームレンズ「UHDxs」シリーズの望遠ズームレンズです。既存のレンズ同様の小型・軽量ボディを確保したまま、広角化と高倍率化を実現しています。また、エルゴノミック・デザインによる優れた操作感を踏襲しながら、運用性と機能性を高めた新開発のデジタルドライブユニット「e-Xs V」を採用しています。多様化する撮影ニーズに応え、中継・報道はもちろん、スタジオでの番組収録や、撮影特機を使用したリモートでの映像制作など、さまざまなユースシーンにおいて臨場感のある映像表現を実現します。

■ 幅広い焦点距離を一本でカバーする広角端 7.3mm とクラス最高^{※2}の高倍率 27 倍ズーム

スタジオの全景や広大な景色などの撮影に適した広角端 7.3mm と、使用頻度の高い焦点距離を幅広くカバーする高倍率 27 倍ズームを両立し、望遠端 197mm までの撮影が可能です。また、2 倍のエクステンダーをレンズ本体に内蔵しており、ズーム域を 2 倍に切り替えることで望遠端 394mm までの撮影領域でも、高精細な映像表現が可能です。

■ 運用性と機能性を高めた新開発のデジタルドライブユニット「e-Xs V」

従来のドライブユニット^{※3}に比べて、アイリスの操作応答性が向上し、27 倍の高倍率化を達成しながら、フォーカス、ズームは従来レンズと同等の操作応答性を実現しています。これにより、スポーツ中継などにおいて、素早く動く被写体を的確に捉えた映像を撮影することができます。さらに、汎用性の高い USB Type-C 端子をキヤノンのデジタルドライブユニットにおいて初めて搭載し、USB メモリからのレンズ設定データの読み取り／書き込みや、ユーザー自身によるファームウェアの更新ができます。また、レンズのフォーカス・ズーム・アイリスの位置情報の送信や、リモートシステムからのレンズ制御もできるため、ニーズの高まるリモート撮影やバーチャルプロダクションへの親和性も向上しています。

製品名	希望小売価格	発売日
CJ27e×7.3B IASE T	オープン価格	2024 年 8 月下旬

※1. クラッチレスズーム機構対応モデルは受注生産

※2. ENG スタイルの 2/3 型センサー搭載 4K 放送用カメラ対応ポータブルズームレンズにおいて 2024 年 4 月 10 日現在（キヤノン調べ）

※3. 「e-Xs IV」（2014 年 7 月発売レンズより搭載）

〈主な特長〉

1) 幅広い焦点距離を一本でカバーする広角端 7.3mm とクラス最高の高倍率 27 倍ズーム

- 広角端 7.3mm、クラス最高となる高倍率 27 倍ズームを達成。スタジオやスポーツ中継・報道において、被写体との距離が取り難い場合や近づきづらいといった制約の多い撮影現場においても、臨場感のある撮影が可能。
- 2 倍のエクステンダーをレンズ本体に内蔵し、ズーム域を 7.3-197mm から、14.6-394mm に切り替え可能。エクステンダー使用時も 4K カメラに対応する高い光学性能を実現。



広角イメージ写真

望遠イメージ写真

2) 運用性と機能性を高めた新開発のデジタルドライブユニット「e-Xs V」

- 従来のドライブユニットに比べ、アイリスの高速化をしたほか、ズームは 27 倍の高倍率を実現しながら従来レンズと同じ速度*を実現。アイリス操作の応答性が向上し、従来から高速で定評のあるズームと合わせ、素早く動く被写体でも瞬間を逃さずカメラオペレーターの意図した通りの高品質な映像の撮影が可能。
- フォーカス時に生じる画角変動をズームと連動して自動補正するフォーカスブリージング補正機能を搭載。フォーカス操作時に画角変化を抑制できるため、運用性が向上。
- ドライブユニット天面のディスプレイからデジタル機能の設定、調整、操作が可能。視認性を向上させ、自然な姿勢でのディスプレイ操作を実現。
- ディスプレイ上のメニューはフィールドズームレンズと同様の構成を新たに採用。従来のドライブユニットのショートカットメニューもサブ画面で使用可能。瞬時のメニュー切り替えができ、慌ただしい現場でも確実な設定・調整を支援。
- USB Type-C 端子をキャノンのデジタルドライブユニットで初搭載し、USB メモリーを通したレンズ設定データの読み取り／書き込みやユーザー自身によるファームウェアの更新が可能。また、各レンズの固有情報やサービスログが USB メモリーへ出力可能なためサービスセンターへの問合せに活用可能。
- バーチャルプロダクションやリモート撮影に対応。高分解能 16bit 絶対値エンコーダーにより、高精度な位置情報の検出ができ、撮影被写体と背景映像の仮想空間を合成する際のキャリブレーションが容易。20pin 端子を 3 箇所備えることで、フォーカス／ズームコントローラーの両方をつないだ場合でも、バーチャルシステム用端子を確保することが可能。さらに、USB Type-C 端子でもレンズのフォーカス・ズーム・アイリスの位置情報の送信や、リモートシステムからのレンズ制御が可能。

* ズーム全域作動時間は最高速度約 0.5 秒



天面図



3 箇所の 20pin 端子

3) 4K 放送用カメラに相応しい光学性能

- 多群ズーム方式、フローティングフォーカス方式の採用により、ズームやフォーカスにともなう収差変動を抑制。さらに、非球面レンズ、高屈折率ガラスの最適な配置により、ズーム全域で画面中心から周辺まで高い解像力とコントラストを達成。
- 蛍石レンズや特殊低分散ガラスを用いた UD レンズを最適配置することで色収差を良好に補正。色にじみや輪郭の色づきを抑え、画面の隅々まで優れた色再現性を達成。
- レンズのコーティング技術や鏡筒内面の反射を抑制する設計により、ゴーストやフレアの発生を抑制し HDR や WCG※に対応した階調豊かな映像を得ることが可能。
- インナーフォーカスシステムを進化させることにより、フォーカス変動を抑制して近距離から遠距離まで高画質を実現。

※映像の色域（カラーガンマ）を広げる技術 Wide Color Gamut の略

4) 高い機動性を誇る小型・軽量ボディ

- 4K 光学性能を持ちながら、質量約 2.10kg、外形寸法約 169.9（幅）×229.0（長さ）×117.2（高さ）mm と、小型・軽量の筐体を実現し、中継・報道の分野に求められる高い機動性を確保。
- エルゴノミック・デザインのグリップ設計により優れた操作性を実現し、担いで撮影する場合の負担を軽減。
- デジタルドライブユニットの 20pin 端子の 1 つを斜め後方に向けて配置。20pin デマンドケーブルを挿した状態でカメラを床置きする時の利便性を向上。

〈製品仕様について〉

製品仕様の詳細はキヤノンホームページをご参照ください。

〈ご参考〉

1) 4K 放送用レンズのラインアップ

キヤノンは、世界最高*倍率 6.7 倍を実現した国産初*の放送用ズームレンズ「フィールドズーム IF-I 型」（1958 年発売）から 60 年以上にわたり、高性能レンズを通じて映像業界のイノベーションに貢献してきました。4K 化という大きな変革期を迎えた今も、その姿勢に変わりはなく、たゆみない研究から生まれた最先端の光学技術と、メカニカル技術、材料工学、生産技術を融合し、厳しい評価試験を経て操作性と信頼性を確立しています。キヤノンは、4K 放送用レンズのさらなるラインアップの拡充を進め、制作現場の多様なニーズに応えていきます。

スタジオ／フィールドズームレンズ 計 6 本
UHD DIGISUPER 122 AF（2022 年 7 月発売）
UHD DIGISUPER 122（2019 年 4 月発売）
UHD DIGISUPER 111（2019 年 2 月発売）
UHD DIGISUPER 90（2016 年 2 月発売）
UHD DIGISUPER 66（2018 年 8 月発売）
UHD DIGISUPER 27（2017 年 3 月発売）

ポータブルズームレンズ 計 10 本	
UHDxs シリーズ	CJ45e×13.6B (2018 年 4 月発売)
	CJ45e×9.7B (2018 年 3 月発売)
	CJ27e×7.3B (2024 年 8 月下旬発売予定)
	CJ25e×7.6B (2019 年 2 月発売)
	CJ20e×5B (2020 年 12 月発売)
	CJ15e×4.3B (2020 年 1 月発売)
UHDgc シリーズ	CJ18e×28B (2019 年 6 月発売)
	CJ24e×7.5B (2018 年 6 月発売)
	C18e×7.6B (2018 年 11 月発売)
	CJ14e×4.3B (2018 年 8 月発売)

※ 1958 年発売当時 (キヤノン調べ)

2) 「2024 NAB Show」への出展

2024 年 4 月 13 日 (土) から 17 日 (水) まで、米国・ラスベガスで開催される放送・映像制作機器の展示会「2024 NAB Show」のキヤノンブースにおいて、本製品を展示する予定です。

3) 放送レンズの市場動向

日本や欧米諸国では、デジタル放送へのシフトに伴い、4K 対応機材の需要が伸びています。また、新興国でも、デジタル放送の導入が広がっており、4K 放送への関心が高まっています。超高精細な映像・放送コンテンツへの関心の高まり、およびバーチャルプロダクション用途への応用拡大、そしてさらなる放送機器市場の発展が見込まれます。
(キヤノン調べ)